

知的障害の教育課程の集団授業における
児童生徒一人一人の実態に応じた指導の実現

👉 画一的な指導ではなく、児童生徒一人一人の「できること」「苦手なこと」「興味・関心」を深く理解し、それらに基づく柔軟な指導・支援を組織的に行うことが理想である。

👉 ユニバーサル・デザインの視点を取り入れた授業づくりやICTの効果的な活用、そして、何よりも教員間の密な連携と知的障害教育に係わる専門性の向上が鍵となる。

※「知的障害教育に係わる専門性」とは、なにか。

※「教員間の連携」をさらに強化するには、どうすればよいか。

児童生徒の認知面やコミュニケーション面、生活面の実態を考慮する。

【目的】

- ☑ 多様なニーズをもつ児童生徒一人一人が最大限に能力を伸ばすこと。
- ☑ 将来の社会参加を見据え、生活年齢も考慮し、いま、身に付けてほしい能力を育むこと。

1 児童生徒に係わる情報の教員間での共有

- ✓個別の指導計画及び個別の教育支援計画
- ✓各学部の年間授業計画、各学年／各グループの各学期の授業計画

[基礎情報としての活用]

- ・児童生徒の認知面やコミュニケーション面、興味・関心、合理的な配慮、具体的な目標などの情報を教員間で共有し、授業設計の土台とする。
- 児童生徒の成長や変化に合わせて定期的に見直し更新することで授業内容や指導方法が調整される。

2 ユニバーサルデザインの視点を取り入れた 授業設計

※新しい視点ではない。

☑多様な情報呈示

- 視覚支援：写真や絵カードやシンボルカード、動画などを活用し、情報呈示する。
- 聴覚支援：明瞭な話し方や端的な説明、重要なキーワードの繰り返しなど。
- 体験活動：実際に「見て、触れて、操作する」経験を通じて学ぶ場と時間を設定する。

☑教材の工夫

- 難易度調整：同じ題材（内容）でも、難易度や情報量を複数の段階に分け、児童生徒の実態に合わせて選択できるようにする。
- 操作に適した教材・教具：大きな文字、読みやすいフォント、耐久性のある素材など、児童生徒が扱いやすい教材・教具を選定、作成する。

※半具体物の役割：具体物と数字を結びつける、数の操作を体験する、数量感覚を養う

※半具体物を使うメリット：数量などの抽象的な概念を具体的な物を介して理解する、半具体物を試行錯誤しながら操作する

☑ 評価方法の工夫

- ・ ペーパーテストだけでなく、発表や実演、ポートフォリオ、観察記録など、児童生徒に適した評価方法も取り入れる。

3 個別化された指導と支援

☑小グループでの指導※TTだからこそ

- ・授業中に個別指導や小グループ指導の時間をつくる。
- ・児童生徒同士で支え合い、協力して取り組む活動をつくる。

※ピアサポート：学習理解度の高い児童生徒が、他の児童生徒をサポートする。ただし、サポートする側の児童生徒に過度な負担が掛からないようにする配慮が必要。

☑学習課題の選択肢のバリエーション

- 選択できる学習課題：児童生徒が興味のある学習課題や得意な方法で取り組める学習課題を複数呈示し、選択させる。
- 学習課題の分量と時間調整：児童生徒の作業スピードや集中力に合わせて、完成までの時間を想定した上で学習課題を呈示する。
- スモールステップ：児童生徒にとって難しい学習課題は、ステップを細分化し、達成感を味わえるようにする。

※難しい学習課題にどのように向き合っているか、試行錯誤しているのかも大切ではある。

☑個別フィードバック

- 具体的かつ肯定的な声掛け：できたことや努力したことを具体的に褒め、自信を高める。
- 改善点の明確化：学習上または生活上の課題に対しては、具体的にどうすれば良いかを分かりやすく伝える。
- 個別指導の時間の設定：必要に応じて、授業時間外や休憩時間などを活用し、個別の指導に対応することもある。

☑学習支援ソフトウェア・アプリの活用

- ・ タブレット端末の活用：児童生徒の学習の進度に合わせてドリルアプリ、コミュニケーション支援ツール、タイピング練習ソフトなどを活用します。
- ・ 音声読み上げ機能：文字を読むことが難しい生徒のために音声読み上げ機能を活用する。

4 ICTの効果的な活用

☑情報の収集と発信

- ・ インターネットを活用し、必要な情報を集めたり、プレゼンテーション資料の作成など、ICTを活用した学習活動を取り入れる。

5 教員の専門性の向上とチーム連携

☑研修機会の充実

- ・ 知的障害のある児童生徒に対する指導方法やICT活用に関する研修などを実施する。

※全体での指導方法の研修は、実施していないわけではないが、定期的には実施してるとはいえない。

※だからこそ、グループ研を指導方法の研修の一つと位置付け、定期的には実施する必要がある。

☑チームふじざくら（チーム〇〇部〇年）

- ・ 教員や保護者、外部専門家などが連携を図り、多角的な視点から児童生徒の成長を促す。

☑児童生徒に係わる情報の共有

- ・ 定期的な共有が一貫した指導につながる。